

開講機関：三菱UFJトラストビジネス株式会社

三菱UFJトラストビジネス株式会社  
渡辺 俊之

### 1. 教育活動の趣旨

三菱UFJトラストビジネス株式会社は、三菱UFJファイナンシャルグループ傘下にある三菱UFJ信託銀行の子会社であり、おもに同行の事務受託を行っている。信託銀行は金融にとどまらず様々な分野を手がけており、業界においてユニークな地位を占めているが、当社にはそうしたさまざまな分野の経験者が出向、転籍という形で在籍している。こうした経験者を中心に、信託銀行がその業務を通じて果たしている金融の役割を一般の受講者にも理解してもらう機会を提供してみたい、という希望があり、その趣旨と情熱に賛同して集まった社内外の講師によって一連の講義を組成したものである。

### 2. 2012年度開講内容及び目標

2012年度は第2回目の開講となるが、開講機関が三菱UFJトラストビジネスとなり、三菱UFJ信託銀行との共催となった。また、講義場所も早稲田大学の西早稲田キャンパスに移し、受講者の対象拡大を図っている。

講義内容については一部の科目、講師を入れ替えたものの大きな変化はなく、市場運用に関する分野から5講義、金融と危機管理に関する分野から4講義、社会的ニーズの広がりに関する分野から5講義に加えて最後にまとめを行い、合計15講義を行う。講師はそれぞれのテーマにおける経験者を選び、計13人が担当する。

色々な分野において金融が担う役割を、実務に基づいた観点から受講者の理解を深めることを目標とし、その上で社会・企業と銀行、特に一般にわかりにくい信託業務もテーマに含めて、金融の関わり方を受講者とともに考えて行きたい

### 3. 抱負・課題

リーマンショック後の金融不況の中で、金融機関はまだ将来への方向性を見出せていない中、昨年はユーロ圏の債務危機が悪化し、更なる影響を受けている。

2011年度の講義においては、銀行が社会に役立っているのかという原点に還ってその存在意義を見直し、金融機関本来の業務である預貸業務だけでなく、証券、資産運用、年金、不動産、相続など幅広い分野に携わる講師の目を通して金融を色々な角度から分析し、その果たすべき役割を探った。講義全般にわたり受講者は熱心に取り組み、また各講師も自由な立場から現場の生の声を交えた具体的内容を採り上げることに奏功し、双方に有意義な講義運営ができたものと自負している。

2012年度は、開講機関が代わり、一部の講義が発展的に解消、講師も入れ替りがあるものの、基本的な考え方に変更はない。引き続き金融機関が本来あるべき姿を受講生とともに考えていける講座としたい。